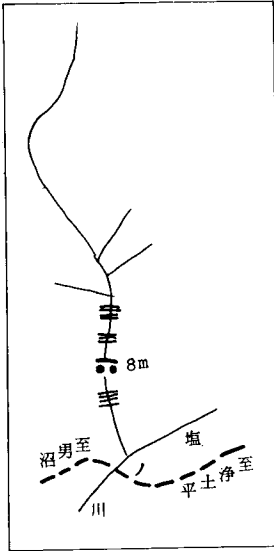


## 的場川

一九七九年八月二十六日

### ◆天気(雨)

どうせ沢登りはぬれるからと出発したが、どうも意気が上がらない。塩の川からすぐ的場川に入る。水量は思ったより少なく、水ゴケの付いた石がゴロゴロしている。ミズナが生えている。これじゃ登るだけヤボと思いつつも登る。



的場川 (作図：橋内憲治)

入口で左岸より二本の枝沢が入るがあとは何も無い。あまりにも単純。やっと滝らしい八びに出るが他はナメが三つだけ。左岸からの二本の支流を過ぎると水量も極

端に減ったので昼食をとって引き返す。

沢からあがったら晴れてきた。

(記)

(タイム)

的場川出合九・一五―引き返し点一二・〇〇―出合一

三・三〇

## 荒川

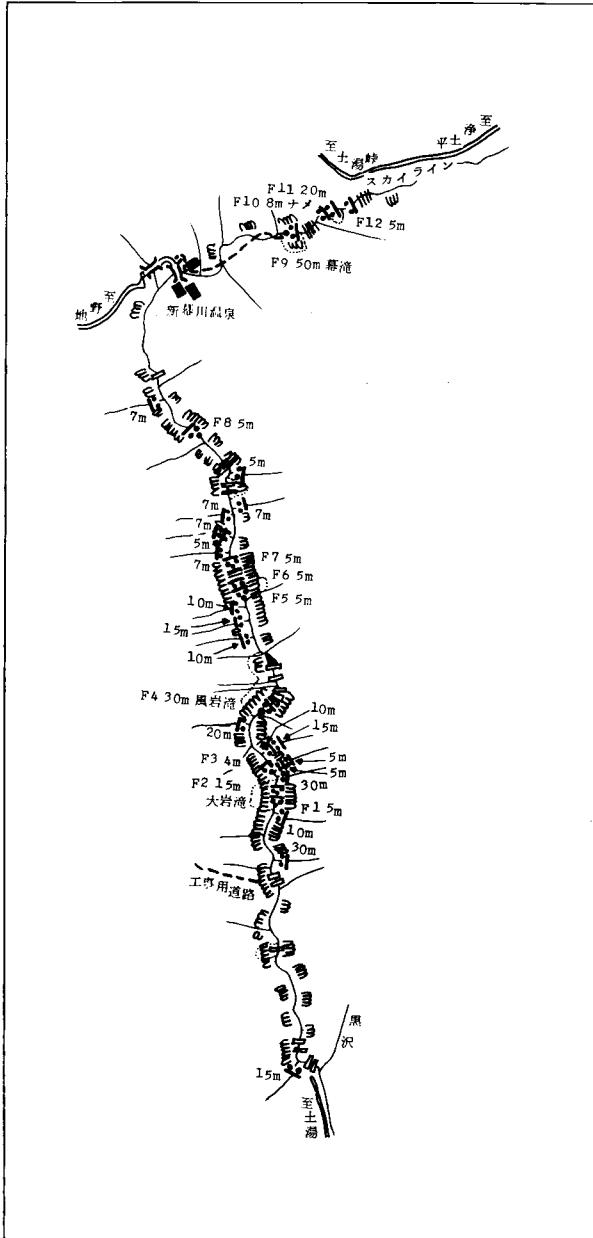
一九七六年八月十一日

### ◆天気(晴)

土湯温泉から荒川林道を進み、土湯温泉の泉源の先、荒川と黒沢の合流点すぐ上流の砂防ダムの所から沢に入る。

流域面積が広いだけにかかなりの水量だ。石を飛び、渡渉をくり返しながら進む。すぐに砂防ダム。荒川にはこの人工の建造物が多く、本当に泣かされた。歩きはじめて約一時間、兩岸とも側壁がそそりたち廊下状となる。

荒川のコル部かと期待して進む。やがて最初の滝(簡単に乗り越せるが、そのすぐ先の大きな滝(大岩滝と思われる))が越せず合わせて右岸を高捲く。なおも廊下が続



荒川 (作図: )

き、左右から合流する支沢はいずれも滝となって本流に注いでいる。やがてまた大きな滝（風岩滝と思われる）に行く手を阻まれ右岸の捲きに入る。

捲き道を登って行くうち滝の上流に三つの砂防ダムを確認する。

いいかげんな所で右にトラバースして沢に下ろうとしておどろいた。更に二つの砂防ダムがあり、一番上流のものは大きな貯水池を有しているではないか。結局二つの小沢と二つの小尾根を越えて一〇時三〇分、やっと沢に降り立つ。この先また廊下状となるが、今度はそのス



荒川・F 11

ケールも小さく、滝も五呎位のがかかるにすぎない。

砂防ダムを更に二ヶ所(三つ)越えていくと沢は明るくなり、樹林帯の中をなだらかに流れるようになる。やがて二俣となり、更にその上流に橋がかかっている建物が見えてくる。新幕川温泉である。コケの多くなった平凡な沢筋を更につめていく。

しめなわが張られていたり、ケルンが積まれていたりするのを見ながら幕滝に到着。

幕滝は荒川随一の滝だ。狭い落口からの水と滝の中段にある透水層を通してわき出す水がすばらしい調和をな

している。滝の左岸中腹には洞穴が掘られ不動明王がまつられている。古くから信仰の対象になつてきたようだ。左岸の草付きを登り樹林帯をトラバースして滝の上に出る。もう水量もぐつと小さい。

ナメを越え二〇分程の滝を直登するともう源流部だ。じきにスカイラインを走る車の音が聞こえ、一四時五分スカイラインに飛び出す。(記・一)

(タイム)

出合七・五〇―大岩滝九・二〇―風岩滝一〇・〇〇―  
新幕川温泉一三・〇〇―幕滝一三・二五―スカイライン  
一四・五五―鳥子平一五・〇五

## 黒 沢

一九七九年七月八日

◆天気(晴)

荒川にかかる砂防ダムの上を渡つて黒沢出合へ。間もなく滝が出るが、あとが続かない。グラグラと歩くうちに橋に出ってしまった。小休止のあと水源の沼を目指して出発。左岸には林道が続いている。枝沢が所々にあるが、